

「仕事始め」が「学問の自由」を奪うという暴挙。変えているものを変えていないと、誰にも分かる文章の違いを強弁。「総合的・俯瞰的」に学問にまで「付度」が始まる。9月23日のゼミは、マルクス『資本論』第3巻第34章「通貨主義」と1844年のイギリス銀行立法」の前半(S571のエンゲルス挿入文の終わりまで)を、緊急代打・高田の報告で行いました。通貨学派と銀行学派の間の通貨論争はピール銀行条例により通貨学派が勝利した。しかし、金融危機となったときには、いずれの時も条例の停止で乗り切った。通貨学派の誤りは貸付可能貨幣資本への需要を現実資本への需要と同一視したことにある。イングランド銀行は発券部と銀行部の分割で決定的な瞬間に資金の自由を奪われたが、恐慌の頂点での条例停止で恐慌を抑えた。討論では、「9/4ゼミたより」に「草稿はまず第3巻から書かれた」とあるが、草稿は1巻が先に書かれている。その後2・3巻が並行して書かれて、1巻の出版はその後であり、3巻の草稿は1巻に比べて古い記述である。34章はエンゲルスが3巻草稿のマルクスの抜き書きを集めてそれに注釈を加えたため、記述に30年以上の差がある。アベノミクスの第1の矢は通貨発行での物価上昇であったが、なぜ物価は上がらないのか。商品が少なく通貨が多いと物価は上がるが、商品が多い場合インフレにならない。バブルの時は土地・株・ゴルフ会員権・美術品など供給が限られているものだけが上がった。出席は、小野さん、高島さん、川口さん、服部さんと高田の5名でした。

- * 10月14日ゼミは、個人報告「1930年代の世界」の後半、「3. 反ファシズム戦争への転機」から行います。
- * 10月28日ゼミは、『資本論』第3巻第34章の後半、S571のエンゲルスの挿入文の後からです。
- * 11月11日からの新しいテキスト候補の推薦をお願いします。前回ゼミでは、大西広他『中国は社会主義か』、菊本美治他『日本経済の長期停滞をどう見るか』、斎藤幸平『大洪水の前に』、同『人新世の「資本論」』(9/17新刊・集英社新著)、米原万里『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』、ハーヴェイ『経済的理性の狂気』が出ました。次回ゼミで決定します。

***** ゼミ日程 *****

- 10月14日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
個人報告：テーマ「1930年代の世界」(後半) 報告小野さん
- 10月28日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻第34章 通貨主義・銀行立法(後半)報告大村さん
- 11月11日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
テキスト未定 報告者未定
- 11月25日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻第35章 貴金属と為替相場 報告者未定
その後 12/9, 12/23, 1/13, 1/27, 2/10, 2/24 (アイクルの部屋)